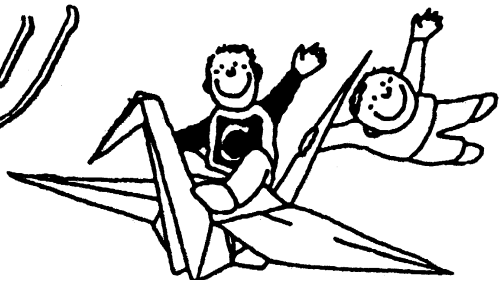
「チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西」ニュース　１０２号　　２０１５．９．１６

ジュラーヴリ

ЖУРАВЛЬ



９月２１日−２９日・チェルノブイリ被災地訪問

ベラルーシの被災者に、皆さんの支援とメッセージを届けます

ヒロシマ・ナガサキ、フクシマとチェルノブイリを結んで

友情を深め、次世代につなぐ交流をめざします

現地訪問・支援カンパ よろしくお願いします！

９月２１日～２９日、「救援関西」を代表して、猪又雅子、長澤由美、松川直子（モスクワから通訳として参加）、振津かつみの４人で、ベラルーシのチェルノブイリ事故被災地を訪問します。日本の多くの皆さんから寄せられたチェルノブイリ・ヒバクシャへの支援とメッセージを、今年も現地に届けてきたいと思います。これまで長年、交流と支援を続けてきた、モギレフ州クラスノポーリエとチェリコフで、病院、学校、幼稚園、障がい者リハビリセンター、子どもの社会保護施設などを訪問し、クラスノポーリエでは教育省なども表敬訪問する予定です。また、首都ミンスクのマリノフカ地区に住む、高汚染地からの「移住者の会」の方々を訪ねます。

2005 年時、クラスノポーリエのプリユート
（子ども社会保護施設）にて紙芝居を披露して交流。

実は、私たちの支援と交流の現地での受け入れに長年にわたり尽力して下さり、これまでに４回来日され、チェルノブイリ被災地の現状を伝えて下さっていたクラスノ

ポーリエの小児科医のベーラ・ルソーバさんが、昨年の秋に脳梗塞で倒れて自宅療養中との知らせが届き、私たちは大きなショックを受けています。今回の訪問時には、ぜひベーラさんをお見舞いしたいと思います。ベーラさんは、チェルノブイリ事故の前からクラスノポーリエの小児科医として地域の子どもたち全員の健康を見守ってこられ、「クラスノポーリエの母」として人々から慕われ、尊敬されてきた方です。2011年に乳ガンと肺梗塞で急逝されたチェリコフの元教師バーリャ・モロゾーバさんに続いて、ベーラさんが病気のために活動の第一線から引退せざるをえなくなったのです。「救援関西」発足当初（1991年）から、私たちの活動を現地で支えて下さってきた方々が「動けない」という状況での現地訪問は、今回が初めてです。ベーラさんやバーリャさんがこれまで果たしてこられた役割を引き継ぎ、私たちとの友情と連帯を繋いでくれる現地の「後継者」の方々との絆を深め、今後の活動につないで行く「新たな第一歩」を、今回の訪問では踏み出さねばなりません。

今年「ヒロシマ・ナガサキ７０年」を迎え、日本でも次の世代に被爆体験と運動を繋いでゆくことが重要な課題になっています。チェルノブイリは来年「３０年」で、健康被害全体の顕在化、被害者への支援、被災地の本当の意味での「復興」も、まだまだこれからという状況です。「ヒロシマ・ナガサキとチェルノブイリを結んで、核被害のない世界をめざそう」と、チェルノブイリ・ヒバクシャの方々とともに、２４年間取り組んできた私達「救援関西」の活動も、チェルノブイリ・ヒバクシャの「次の世代」（事故当時まだ子供や若者だった世代）、さらに「その次の世代」（事故当時、まだ生まれていなかった世代）とのつながりへと、これまでベーラさんたちとともに積み上げてきた成果を基礎に進んでゆかねばならない時期を迎えています。そして今や、さらに「フクシマとの連帯」が加わり、「フクシマを核時代の終わりの始まりに」を合い言葉にした新たな取り組みを今後もどう築いていくのか…日本の私達も、私たちの「次の世代」に、どうヒバクシャ連帯と反核運動を繋いでいくか…そのような課題を胸に、ベラルーシに向けて出発します。

今回の訪問は、これまで現地でベーラさんがいろいろと手配して下さっていたことを、自分達でほとんど全部しなければならず、どこまでやりきれるかわからないところもありますが、４人で協力して、今後の活動につながるような現地訪問にしたいと思っています。１２月１３日の「救援関西発足２４周年の集い」（案内は　12　ページ）での報告をご期待下さい。
支援と現地訪問カンパへのご協力も、どうぞよろしくお願いします。

事務局、振津かつみ

2015 年 9 月ベラルーシ訪問、行ってきます

≪チェルノブイリ、なんだか昨日のようです≫

今回 2 回目の訪問をします。長澤由美です。

チェルノブイリ原発事故からもうすぐ 30 年ですが、「石棺」は危険なままカバーを被っただけ、荒れ果てた土地は元に返らず、なんだか昨日のようでもあります。しかしその間に、各地での戦争や「想定外」な自然災害が続き、2011 年には、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故がお

こりました。そして、この期に及んでも日本は、再稼働・原発復活へ舵を切っています。

≪「自然の手加減」の先にあるもの≫

尊敬するベーラさんたちの顔が目に浮かび、福島で踏ん張っているみなさんの声が耳に聞こえます。予測できない自然と制御できない原子力。汚染を何万年も残す原子力を、もてあそんでいいわけはない。そういえば、震災の前日私たちは何を知っていたか？・・・今が最悪と思っていても、実はまだまだ運と自然が手加減してくれているだけかもしれません。

≪これからの時代のために≫

2005 年に初めて訪問した私は、ベラルーシの自然や文化に圧倒され、ベーラさんバーリャさんの人柄に感動して、深刻さより今後の希望について考えていました。しかし、放射能は長生きだけど人間はそうはいきません。ミンスクの移住者の会のリーダー、ターニャさんが若くして亡くなられ、チェリコフの教師で町の人々の信頼厚いバーリャさんが突然亡くなられ、クラスノポーリエの母、小児科医師ベーラさんがご病気という現実があります。

2015 年、これからの時代のために、次の世代のためにどんなことができるか？交流は続けられるのか？相談してきたいと思います。

≪尊敬するベーラさんへ≫

ベーラさんがご病気と聞き、目の前が暗くなりました。困難な時にいつも町の皆さんの前にいて、私たちにとってもたよりのベーラさんはずっと元気と思い込んでいました。本当は振津さんと共に今後の研究を担える研究者や、若い世代のリーダーが訪問するのが建設的ですが、どうしてもお会いしたいと無理を言った感があります。

≪人々の共通の思い≫

私は 1995 年に汚染が続く現地の状況を聞き、猪又さんたちに誘われて、職場の友人や、保育所仲間と共に、衣類や支援物資発送のお手伝いを始めましたが、特別になにか貢献できるものはありません。老眼と腰痛を気にしながら看護師として働き、職場とスーパーを往復している普通のおばさんですが、今、普通の若い人々が、子連れのお母さんが、原発や平和の問題に「これは‥」と動き出していることに重なるものを感じています。

チェルノブイリの現実と人々の共通の思いを伝える役を果たしたいと思います。

長澤由美

さらに交流を積み重ねることができるように

2010 年 6 月以来 5 年ぶりのベラルーシ訪問です。当時は被爆 65 周年であり、翌年の「チェルノブイリ事故２５周年」に向け、被災地から若い方をお招きするための準備の訪問でもありました（私は振津さんの後に付いて行っただけでしたが）。若い方に、現地の状況を語っていただき、また広島・福井などを訪れて交流する中で、「ヒロシマ・ナガサキ・チェルノブイリを繰り返すな」という想いを共有し、活動していければとの想いをこめていました。（しかし、来日直前の 3 月 11 日に、こともあろうに日本で東京電力福島第一原発の重大事故が起き、来日は中止にならざるを得ませんでした。）

事故翌年の 2012 年 4 月にベーラさん、バーリャさんが来日され、福島被災地訪問にお供した時のお二人の誠実な姿は本当に感謝で忘れられません。お二人は、事故直後の自分たちの辛い体験を率直に話され、また福島の方々を励まされ、被災地の方々と真摯に向き合ってくださいました。

フクシマ事故から 4 年半経つ今もなお事故は収束せず、問題は山積しています。それなのに多くの反対の声にもかかわらず川内原発の再稼働が強行され、更なる再稼働が目論まれています。何ということでしょう。

来年 30 年を迎えるチェルノブイリの被災地はどんな状況なのか、少しでも被災地の現状を知り、今までの「顔の見える関係」を大切にしながら、さらに若い人々に交流の輪を広げていければ、そしてベーラさんにお会いできることを楽しみに行ってきたいと思います。

よろしくお願いいたします。

事務局：猪又雅子

カンパ・会費納入のお願い

今回、「救援関西」の代表 4 人でベラルーシを訪問し、支援と交流を重ねてきます。また新たな形での交流になりそうです。
そして、現地の方々と相談しながら、ささやかでも本当に現地で役立つ形での支援を続けたいと願っています。

つきましては支援・交流についてのカンパをよろしくご協力お願いします。

また、会費の納入もよろしくお願いいたします。

いつものお願いで恐縮ではありますが、なにとぞよろしくお願いいたします。

カンパ・会費の納入ありがとうございました

（2015.6.17～2015.9.15）

木村英子　齋藤洵子　佐藤ちい子　御堂義之　堀口眞也　熊沢滋子　旦保立子　高橋典子　野中マサ子　大月良子　淡川典子　斉藤日出治　長沢由美　吉崎恵美子　村井さとみ　津村富代　富田洋香　木村英子　徐福南　原発の危険性を考える宝塚の会　大久保利子　丸本加寿世　匿名 1 名

（順不同・敬称略）

戦争は二度としないで！核は二度と使わないで！

～山科さん、戦争・被爆体験を語る～

山科さんが、６月２４日、大阪市立大池中学校で被爆体験を話されました。２学年の三日間にわたる人権学習「反戦・平和学習」の一環として、講和に招かれたものです。

会場には、山科さんが語り部をされる時にいつも持参されるパネル―原爆投下により大きな火傷を背負わされたり、茫然自失の被爆者の方の姿や破壊されつくした長崎市街の様子などの写真―があらかじめ展示されていました。

山科さんは展示を指しながら被爆体験談を語られた後、録画「ナガサキの証言」（被爆６５周年に広島放送が山科さんにインタビューした記録）を鑑賞しました。終わったあと、山科さんは「子ども達からエネルギーを貰ったと至極お元気でした。

生徒たちは最後まで熱心に聞き入っていました。「戦争は二度としないで」「核は二度と使わないで」「平和の尊さを語り継いでいくことが生涯をかけての仕事」と言う「原爆のおばあちゃん」の生々しい被爆体験やその後の生き方、戦争や被爆の恐さや辛さ、二度と戦争をしてはいけないという思いが、今の時代の空気とあいまってか、みずみずしい若い心に深く響き共鳴したようでした。

以下は生徒たちの山科さんへのお手紙です。許可を頂いて一部を載せさせていただきました。

（いのまた）

＜山科和子さんへの手紙＞

＊大池中学校に来ていただいてありがとうございました。山科さんのお話を聞いていて、くるしみとかかなしみとかがめっちゃ伝わってきました。放射線がすごくこわくて人にがいをあたえるということもつたわって、私も妹とかいとこに「せんそう」や「原爆」のことをおしえていきたいです。本当にきちょうな話を聞かせてくれてありがとうございました。

＊原爆の被害を話すことは苦しいことを思い出してしまうのに、私たちに話してくださってありがとうございました。私たちの世代で戦争をおこしてしまわないように、このことを心に留めておきたいと思いました。

＊戦争や核爆弾は恐ろしいもので、もう二度としてはいけないということは前からしっていましたが、核爆弾による被害をよく知ることができました。山科和子さんの家族の話や話をするときに、つるを持って行くという話を聞いて、どんなに辛い体験をしたか伝わってきたような気がします。体もしんどいはずなのに、私たちやこれからのためにお話してくださってありがとうございました。これからもがんばってください。

家族に例えたツルを手にして・・

ゴー！ゴー！ワクワクキャンプメデイカルチェック

2015 年 8 月 11 日、恒例のゴーワクメデイカルチェックに行きました。

≪ゴー！ゴー！ワクワクキャンプ≫

ゴー！ゴー！ワクワクキャンプは、京都の若い人々が、東日本大震災に伴う福島第一原発事故によって汚染された地域に住むこどもたちを、一時的にでも放射能から遠ざけたい、保養をしてもらいたいという思いで、2011 年より行っている保養活動です。今年も夏の間中 34 日間、南丹の古民家で開かれました。総数はこども 47 名親御さん 28 名、ボランテイアや支援者多数の大所帯だそうです。

≪赤屋根の古民家≫

車で山を越えると、真夏の光は強いのに木陰の風が心持ち涼しくなります。田舎道がずっと続き、木々の緑眩しく、稲の波が延々と広がり、川が流れ、ちょっと曲がると、あれっ！大きな赤屋根の古民家の庭の洗濯物の陰からたくさんのこどもたちの顔がのぞきましした。参加しているこどもたちの健康管理がメインの役割ですが、振津医師による親御さんたちの健康相談、というかお話を聞いたりもします。

≪流しそうめん：心に引っかかっていたこと≫

この日のお昼は流しそうめん。朝から竹でそうめんを流す台作成におおわらわ、こどもたちも竹細工やお手伝い。午後からメデイカルチェック済めば川遊びに連れて行ってもらうのも楽しみにしていました。手作りのそうめん流しから勢いよくそうめんが流れると、みんな夢中で箸を構えています。流す役もこども。流しすぎ！早く流して！と声が飛び交って、最後のほうは、ミニトマト（？）が流れてきました。かき揚げを頬張りながら、親御さんたちもリラックスして大笑い。今年初めて参加のお母さんは放射能のことでずっと心に引っかかっていたことをお話しくださいました。別の方は移住してからの事、いろいろな思いをお話ししてくださいました。

そうめんを狙う目は真剣そのもの

≪健診≫

健診はスムーズに進み、こどもたちは大した症状もなく、よかったのですが、今年の夏は猛暑。ゴーワクには冷房はありません。夏涼しい古民家といえども、汗疹が多かったので「とびひ」が心配、簡易シャワー設置はどうだろうとお話ししました。

≪「のんびり」と「おいしい」≫

田舎の親戚宅に行ってきたように「のんびりしてもらいたい」が特徴のゴーワクですが、食事がおいしいのも特徴です。心身ともに健やかに過ごせるように調理担当は毎日バランスの取れた手作りのごはんとおやつと麦茶とウメジュースを大量に用意します。この日は川遊びから帰ってきたら、変わりおにぎりとスイカが待っていました。さっきいっぱいそうめん食べたのに、こどもたちは大喜びで元気に手が出ます。10 切れ食べた猛者も。

≪初参加　畳にゴロン≫

いつもはリピーターの参加率高めのゴーワクですが、今年は初参加が多いと聞きました。ボランテイアのほうも､いつもの中心メンバーおなじみスタッフ以外の初参加多数お見かけしました。教育学部の学生さん、自分も子育て中のお母さん、理工学部の１年生・・・人をお手伝いしようと参加したのに、こどもと手をつないで川へ行ったりする中で、出会いが自分にも影響を与えた等話しておられました。そして、知らないうちに、畳の上にゴロンと寝転んで子どもたちとうとうと。参加者もボランテイアもゴーワク色に溶け込んでいるようでした。

≪ゴーワクの３本柱≫

そういえば、ゴーワクの３本柱は、①子どもを放射能からとおざける、②逃げられないという心理状況に追い込まない、③つながりをつくる、でした。住んでいる土地の放射線量が高くても、それぞれの立場や事情があり、移住する家族も住みながら放射能と向き合って暮らす家族もいる中で、こどもの立場にたって誠実に対応することが重要だからだとおもいます。具体的には、安全でおいしいごはんをみんなで食べ、できるだけ自宅のように自由に遊べるようにし、ひとりにしない、こどもも親御さんもできることを手伝う体制、スタッフミーテイング、その中で、保養参加者の親御さんどうし、スタッフどうし、そのまわり、のつながりを広げていました。

今頃、中心スタッフのみなさんは、夏の疲れが出て倒れてないかなあ？秋の風が、参加者の皆さんの「楽しかったよ」をきっと運んでくれると思います。核のない時代のために。

（ゆみ）

～「ゴーワクキャンプ」よりキャンプ終了の報告と礼状が届きました～

チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西　の皆さま

拝啓

初秋の頃、みなさまにおかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

この度は、私たちゴー！ゴー！ワクワクキャンプへのへご協力くださり、ありがとうございました。

今年は７月 24 日～８月 27 日の期間中に、こども 47 名（リピーター21 名、新規 26 名）、保護者 28 名が福島・宮城・茨城・東京・神奈川・埼玉の 6 都県から参加されました（過去最多の参加者数となりました）。

ひとりひとり、さまざまな事情を抱えながら、夏の家に集い、短い時間ではありますが大家族となって生活を共にしました。

今夏はかなりの猛暑で、こどももおとなも汗をダラダラ流しながら過ごしていました。

これまでに比べて初参加の人が多く、始まるまでは「どんな夏の家になるだろう」とちょっぴり不安もありましたが、始まってしまえばいつも通り。こどもたちの溢れるエネルギー、わいわい賑やかに楽しく過ごす毎日でした。

こどもたちに大きな事故や病気等なくキャンプを終えることができたのも、さまざまな形で多くの方が関わってくださったおかげです。本当にありがとうございました。

キャンプ内容について詳細な報告は報告書に述べさせていただきます（11 月下旬完成予定）。

原発事故から丸 4 年。7 回目のキャンプとなった 2015 夏の家でした。

「これまでと違う」と感じたのは、キャンプ開始前の問い合わせ状況です。ゴーワクはネットや新聞、チラシ等を使っての大々的な参加募集はおこなっていません。リピーターの方からの紹介、他の保養団体からの紹介、現地相談会など、何かしらのつながりの中で新しい参加者と出会ってきました。なので、応募が殺到するとか、募集開始して一日で定員になってしまった、などということはありませんでした。ですが、今夏は「殺到」とまではいかないまでも、新しい方からの参加希望・問い合わせが例年の比ではなく多くありました。ゴーワクへの申し込みが増えたことには、いろいろ要因があるのだと思いますが、保養を必要としている人が本当にたくさんいるのだということをはっきり表していると思います。それは、放射線の影響に日々不安を抱えながら生活している人がそれだけたくさんいるということです。

市民の手による保養の取り組みは地道に続けられているものの、すべてのこどもたちが保養の機会を得るためには行政の関わりが重要となります。どうにか今の状況を打破しようと取り組んでいる人や団体もおられますし、毎回の保養プログラム実施だけで手一杯というところもあります。

保養だけでなく、定期的な健康診断などの医療保障、移住を選択した人への生活保障、食品や環境中の放射線測定、被ばく労働に携わる人への保障・・。「被災地」の状況は複雑化し、必要とされることも多岐にわたります。その中で私たちにできることは微々たるものですが、みなさまと共に、悩み、知恵を出し合いながら、ゴー！ゴー！ワクワクキャンプを続けていきたいと思います。

チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西のみなさまには 2011 年以降から今まで大変お世話になっております。みなさまの 20 年以上にわたる取り組みに敬意を表するとともに、その経験に学び、またこれからのことを一緒に考えていきたいと思います。

今年も多くの方の関わりのおかげで「夏の家」を実施できましたことを本当に嬉しく思います。

様々なお力添えを、ありがとうございました。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

2015 年 9 月吉日

ゴー！ゴー！ワクワクキャンプ

川内原発再稼働反対の集会に参加！

８月９日、川内原発再起動前集会に参加。原発に隣接する久美崎海岸に九州各地と全国から 2000 人が集まり抗議集会が開かれた。

集会後、川内原発ゲート前まで抗議デモ。
ゲート前で、再稼働反対の抗議デモを行った。

ゲート前では多数の警官がガード。
非暴力の抗議デモに対し、警官に守られながら原発再稼働を強行する九電とは・・。いったい・・。

さよなら原発全国集会in京都

2015 年 9 月 6 日日曜日、原発再稼働に怒りの 5300 人が集まりました。

梅小路公園という、京都駅からほど近く、新しく水族館もできた、ちょっとした新名所の緑濃い公園に、関西各地から福井から、怒りの握り拳の人々が集まってきました。しかしあいにくのかなりの雨。「緊急時労働者被ばく線量引き上げ反対」の署名もままならず、物品販売テントも商売にならず、ふりあげた拳をどうしようと思っているうちにプレイベントが始まりました。

まずは、原発賠償京都訴訟原告で、福島市から京都に避難されている菅野千景さんが、母子避難の現状や仮設の生活のことを報告。福島からは富岡の福島原発訴訟団告訴人の古川好子さんが、今は会津に避難しているが、家族離ればなれに暮しておられます。被災の評価を加害者がしていること、加害者は国の後ろに隠れ、嘘を重ね、空間線量が減ったからと楢葉町のように次々帰還を指示されたり、被ばくも取り返しがつかなくなって、ばれた後から発表したりのくりかえし、と激怒されていました。司会も歌も、ミュージシャンの古川豪さん。「若狭の海の歌」「原子力発電運転を中止せよ」とオリジナルの歌のコンサートで締めくくりました。

本集会では、高浜・川内・伊方の各現地からの報告に続き、嘉田由紀子氏の報告がありました。原発を止めると停電や不測の事態が起きる、と激しい反発があったが、実際は国民が数段上。猛暑の夏のピークも省エネと代替エネルギーでカバーできて何も困らなかった。そして、原発になにかあった時の非難計画は知事として実務的に検討重ねたうえで言います「不可能」「絵に描いた餅」。たかが発電方法、代わりはいくらでもある、琵琶湖のかわりはない！と訴えました。続いて、鎌田慧・中尾ハジメ各氏の発言があり、最後は宮下福井県民会議事務局長の報告とシュプレヒコール、「ストップ原発再稼働」のパネルをみんなで掲げました。

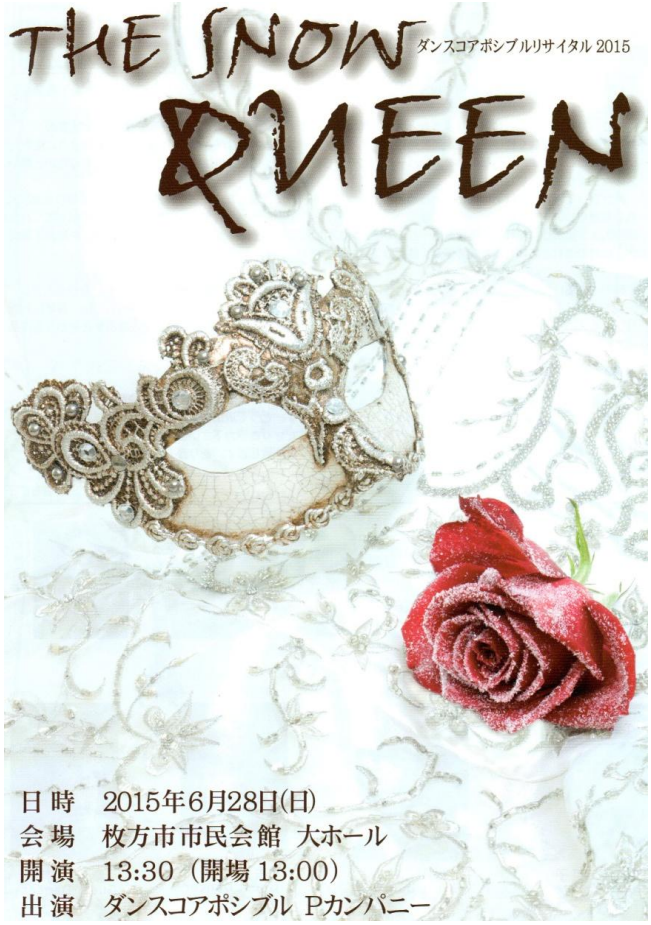
「ストップ！！原発再稼働」を掲げる

福井から松下さん石地さんも来られていて、福井と関西・・・ちょうど中央の京都で集会は今後もありですねとご意見もらいました。

あー！もう少し雨がましだったら！・・・と、言いつつ、隣のテントの「使い捨て時代を考える会」のニンジンジュースを飲んで帰りました。

創作バレエ　　*THE　SNOW　QUEEN*

１年ぶりに小谷さんのバレエ（ダンスコアポシブル、Ｐカンパニー公演）を見に行きました。今年はアンデルセンの雪の女王、村の少女ゲルダの物語です。



氷のカケラが目に入って心が凍りついた友達を雪の女王から取り戻すために、あらゆる困難を乗り越え、多くの人の助けも得て進む、ゲルダの一生懸命さに感動でした。

ゲルダ役の綾夏さんが可憐でたまりません。

華やかでかわいい夢の世界ですが、意思の強さや、理不尽に負けない一途さは、市販のお伽話とは一味違う、ポシブルらしい、見たあと、熱いものが残る舞台でした。

２部では、自由が奪われ、被害者も加害者もNoと言えなくなる戦争の時代の前夜と､戦争、戦争後の惨状、祈りがテーマの創作バレエ。見応えあり。

どこか、広い会場でもやってもらい皆さんに、見てもらいたい小品でした。ポシブルさん、ありがとう(*^_^*)

＝公演のお知らせ＝

Ｐカンパニーダンス公演

『生きる生きる踊る踊る』

10月24日（土）18時～

芦屋市民センター

ルナ・ホール

問い合わせ

090-5647-0751

♡♠◇♣♡♠◇♣♡♠◇♣♡♠◇♣♡♠◇♣お知らせ◇♣♡♠◇♣♡♠◇♣♡♠◇♣♡♠◇♣

＊大阪の「高校生平和大使」国連訪問報告を聞き、被爆者の体験と運動に学ぶ

日時：9 月 22 日（火・祝日）午後 2 時～5 時

場所：市民交流センターひがしよどがわ 401 号室

＊子どもたちに　核も戦争もない　未来を

戦争はいやや！　核なんかいらへん！　フェスティバル

日時：10 月 18 日（日）　午前 10 時～午後 3 時

場所：長居公園内　南児童遊園

主催：反核フェスティバル実行委員会（連絡先：06-6653-0038）

＝「救援関西」もバザー・アピール・創作バレー（ダンスコアポシブル）・パネル展示を行います＝

＊「もんじゅ」も原発もいらない！　　戦争いやや！　関西集会

日時：11 月 3 日 12 時半～　　場所：福島区民センター

主催：脱原発政策実現全国ネットワーク 関西・福井ブロック　とめよう「もんじゅ」関西連絡会　（連絡先：072-843-1904）

＊交流会～ロシアのチェルノブイリ被災地からアントンさんを迎えて

日時：11 月 19 日午後６時半～　　場所：市民交流センターひがしよどがわ 403 号

主催：チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西

ロシアの NGO による子どもたちの「保養」キャンプの様子など聞き、フクシマ事故後、各地で取り組まれている被災地の子どもたちの「保養」の意義や課題についても話し合いたいと思います。

＊ ウラン開発に反対する米先住民との連帯集会

～アコマ・プエブロのペトゥーチ・ギルバートさんを迎えて～

日時：11 月 24 日午後６時半～　　場所：市民交流センターひがしよどがわ 403 号

共催：チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西/ヒバク反対キャンペーン

ニューメキシコ州の先住民の聖山・テイラー山の麓で、日本企業が出資して新たなウラン開発計画が進められています。これ以上のヒバク被害を許してはなりません。

＊「救援関西発足 24 周年」の集い

日時：12 月 13 日（日）午後 1 時 30 分～4 時 30 分

場所：大阪市立総合生涯学習センター第 1 研修室　（大阪駅前第 2 ビル５F）

＝チェルノブイリ被災地訪問報告も行います＝

ニュース発行:チェルノブイリ･ヒバクシャ救援関西事務局

cherno-kansai@titan.ocn.ne.jp

連絡先:〒591-8021　堺市北区新金岡町 1-3-15-102　猪又方

0722－53－4644

郵便振替:00910-2-32752